



平成 26 年 5 月 28 日

各 位

上 場 会 社 名 **株式会社サニックス**
代表者役職氏名 取締役社長 宗 政 伸 一
(コード番号 4 6 5 1 東証一部・福証)
問 い 合 せ 先 常務執行役員 経営企画部長
井 上 公 三
TEL 092-436-8882

新・中期経営計画「サンシャインプラン 2016」策定のお知らせ

当社は、この度 2014～2016 年度を計画対象期間とする新・中期経営計画「サンシャインプラン 2016」を策定し、平成 26 年 5 月 28 日開催の取締役会において決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 新・中期経営計画策定の背景

当社グループは、平成 24 年 7 月よりスタートした「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」を受けて急速に普及している産業用(10kW以上)太陽光発電の事業分野に経営資源を集中し、平成 26 年 3 月期を業容拡大に向けたスタートの年とし、体制の構築、業容の拡大を図り、エネルギー事業へのシフトを加速することとします。一方で、創業以来の主たる事業である一般家庭向け並びに事業者向けの環境衛生管理事業は、既存顧客に対するメンテナンスを主たる業務とすることとします。今後、資源循環型発電を行う環境資源開発事業の展開とともに、経営資源の産業用太陽光発電システムへの集中投入により、当社グループの事業構成がエネルギー企業へと大きく変貌する見通しであります。

一方で、産業用太陽光発電は将来に亘り普及が期待される事業分野であります。しかし、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」は買い取り単価(10kW以上は税抜きで 36 円から今年度 32 円に)の低下が見込まれることや、固定価格での買取期間(現行制度では 20 年間)が短縮される可能性、制度そのものが廃止される可能性を否定できるものではありません。

このようなマーケット環境の中、市場動向を十分に把握し、かつ急激なマーケットの変化にも機を見て敏に対応する必要があります。本年度産業用太陽光発電の買取価格が引き下げられましたが、当社グループとしては、システム設置に対する引き合いは強く需要は旺盛であると判断しており、積極的に事業を展開できる環境にあります。

以上のことから、当社グループは、平成 27 年 3 月期を初年度とし、事業環境の認識と予測、経営方針、事業戦略、数値計画等、新・中期経営計画を策定することで、会社の方向性、各年度における事業部毎の取り組みを明確にし、確固たるエネルギー企業へのシフトを加速してまいります。

2. 新・中期経営計画「サンシャインプラン 2016」の概要

(1) 事業環境の認識と予測

東日本大震災が発生して以降、日本では原子力発電所が相次ぎ稼働を停止し、総発電電力量は 2003 年レベルにまで低下し、それらを補うため火力発電所稼働増に伴い貿易赤字が拡大するなどの諸問題も含め、エネルギー供給構造の脆弱性が高まっています。一方で、再生可能エネルギー政策を積極的に推し進めるべく平成 24 年 7 月よりスタートした「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」により、太陽光発電や風力発電など急速な普及が期待されており、特に電力需要が多い昼間に発電できる太陽光発電は日本に適した再生可能エネルギーと言えます。

2014 年に策定された「エネルギー基本計画」では、「2013 年度から 3 年程度、導入を最大限加速していき、その後も積極的に推進する」と明記されました。また、2030 年に総発電量に占める再生可能エネルギーの割合を約 2 割以上とすることを目指すとされ、長期的に見ても、設置可能性がある屋根や土地における太陽光発電の導入ポテンシャルは非常に大きなものがあると考えます。

(2) 当社グループの事業戦略

これまでに培った経験を基盤に、太陽光発電関連事業や資源循環型発電関連事業を通して、環境にやさしいエネルギーの普及、促進により社会に貢献してまいります。

①. 産業用太陽光発電事業の拡大

- ・ 西日本地域の緻密な対応とシェア拡大
- ・ 東日本地域の直施工体制展開強化とシェア拡大
- ・ 太陽光モジュール、パワーコンディショナ等主要部材の内製化推進
- ・ 2015 年 3 月期以降における高圧案件の施工増加に向けたコストダウンの推進

②. 資源循環型発電事業の拡大

- ・ プラスチック燃料の品質向上と発電所の稼働効率向上
- ・ プラスチック処理設備増強による処理能力の拡大
- ・ 有機廃液処理（ひびき工場）を活用したバイオマス発電の開始

③. 電力小売り・卸売事業の本格立ち上げ

- ・ 2016 年電力小売り自由化を視野に、小売事業への参入

(3) 数値計画

【全社連結】

(単位：百万円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 予想	2016年3月期 計画	2017年3月期 計画
売上高	84,221	161,500	251,000	330,000
売上総利益	21,421	38,600	56,000	72,500
売上総利益率	25.4%	23.9%	22.3%	22.0%
営業利益	4,508	14,000	24,000	34,000
営業利益率	5.4%	8.7%	9.6%	10.3%
当期純利益	2,964	8,830	14,000	20,000
当期純利益率	3.5%	5.5%	5.6%	6.1%

以上